

## 市基本計画

### 序章

#### 1 策定の趣旨（5ページ）

人口構造の急速な変化をはじめ、環境問題・グローバル化・地方分権の進展・本市の財政状況の悪化への対応などの重要な課題に的確に対応するとともに、将来にわたり魅力と活力にあふれるまちを築くため、中長期的な市政運営の基本指針として、また、様々な主体とともに取り組むまちづくりの計画として策定しました。

#### 2 計画の特色（6ページ）

##### (1) みんなが共有できる計画

様々な主体の参画による計画づくりを行い、まちづくりの計画として、考え方や方向性を共有できるよう努めました。

##### (2) 変化に対応できる計画 計画期間を短縮し、状況変化への対応力を高めました。

- ・計画体系 … 基本構想・基本計画・実施計画の3層構造
- ・計画期間 … 基本構想:21世紀を展望、基本計画:10年(平成24～33年度)、実施計画:3年

## 第1章 千葉市の概況

#### 1 位置及び地勢（8ページ）

千葉県中央部で東京都心部から東に約40kmにあります。大都市でありながら緑と水辺に恵まれ、気候は温暖です。

#### 2 都市の歩み（9ページ）

高度経済成長を経て大都市へ飛躍しました。充実した都市機能と豊かな自然を併せ持つ、バランスのとれた大都市です。

#### 3 人口・世帯の動向（12ページ）

##### (1) これまでの推移 昭和40年代を中心に急増後、緩やかに増加しました。世帯数は人口より高い伸び率で増加しました。

##### (2) 人口の将来見通し

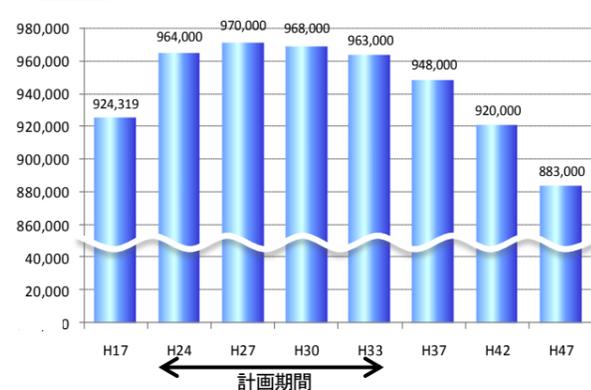
[総人口] 平成27年の97万人をピークに達した後、全国に比べ緩やかに減少します。

[区別人口] 中央区は平成27年以降も増加し、その他の区は、平成27年にはピークを迎え、その後減少します。

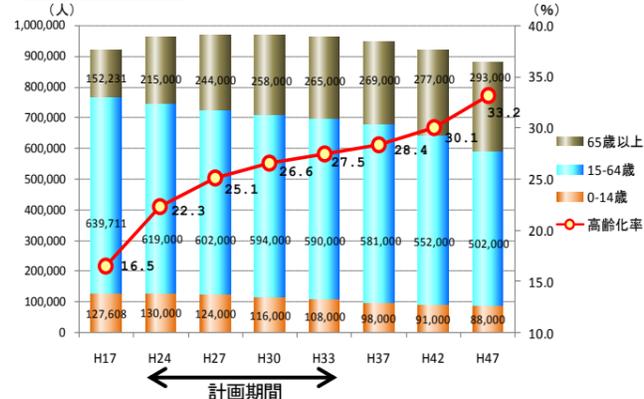
[年齢3区分人口] 平成27年には4人に1人、平成47年には3人に1人が高齢者という超高齢社会が到来します。

##### (3) 世帯数の将来見通し 平均世帯人員が減少傾向のため、世帯数が緩やかに増加します。

総人口



年齢3区分人口



#### 4 財政状況に関する現状と今後の展望（19ページ）

##### (1) 財政の現状と財政健全化への取組み

財政の硬直化に対応し、財政健全化への取組みを強化しており、引き続き、安定的・持続的な財政運営を行います。

##### (2) 今後の展望

実施計画における事業の厳選や都市基盤施設の長寿命化など、最少経費・最大効果のための努力を続けます。

## 第2章 まちづくりの重要な課題

#### (1) 人口減少社会への対応（22ページ）

[現況] 本市の人口は、平成27年の97万人をピークに緩やかに減少します。その後、本格的な人口減少社会が到来します。  
・臨海部の埋立てによる市域拡大や住宅地開発を進めた結果、拡散的な市街地が形成されています。

[課題] ▶他都市よりも人口減少が緩やかで年代構成のバランスがとれた、魅力的で活力ある社会を築くため、住みたい・働きたい・訪れたいと思われるような魅力づくりや発信、様々な主体と行政の連携強化や人材育成が必要です。  
▶市民の快適な生活と効率的な都市経営との両立を図るため、都市構造のあり方を再考し、市街地の拡散を防ぐとともに、都市機能の集約化によるまちづくりへの転換を図ることが必要です。

#### (2) 少子超高齢社会への対応（23ページ）

[現況] 本市は、平成27年には高齢化率が25%を超えるなど、急速に本格的な超高齢社会を迎えます。高齢者数も大幅に増加しますが、当面は、65～74歳の方が75歳以上の方を上回ります。  
・一方、年少人口(15歳未満)と生産年齢人口(15～64歳)は減少を続けます。  
・今後、元気で健康な高齢者の増加により、高齢者と子どもなど、地域への密着度の高い市民の割合が増加します。

[課題] ▶高齢者が引き続き元気で健康に暮らせる環境づくりや、的確な福祉サービスの提供が必要です。  
▶子育ての場として選ばれるため、安心して子どもを産み、育てたいと感ずることができる環境づくりが必要です。  
▶子どもや高齢者などの市民の力をまちづくりの力へとつなげることが必要です。

#### (3) 環境問題への対応（25ページ）

[現況] 国を中心に、地球温暖化対策、生物多様性の確保、環境対策事業を推進しています。  
・本市は、人口規模・産業集積・交通量ともに大きく、環境負荷が量的に大きい都市です。

[課題] ▶温室効果ガスの削減や3Rの推進、自然環境の保全や都市機能と自然の調和などが必要です。  
▶都市経営の効率化や公共交通中心の交通ネットワークなど、環境負荷の低いまちづくりが必要です。

#### (4) グローバル社会への対応（26ページ）

[現況] 経済のグローバル化により、企業が厳しい国際競争にさらされています。  
・文化のグローバル化に伴い、多様な文化を身近に感じられる一方、地域文化の独自性が育ちにくい状況です。  
・ICTの発達がグローバル化を促進し、情報ネットワーク社会が日常生活において実現されてきています。

[課題] ▶地域の特徴ある魅力を充実させ、活力ある社会をつくるため、人的・物的資源が充実し、力を発揮できることが必要です。  
▶人材の育成や企業の強みを発揮できる環境づくり、魅力の発信が必要です。  
▶外国人の快適な観光・仕事・生活を支えるなど、多文化共生社会の実現が必要です。  
▶人やモノの移動のしやすさを確保するため、利便性の向上による総合的な交通ネットワークの充実が必要です。  
▶様々な主体の情報共有やコミュニケーション促進のため、ICTの効果的な活用が必要です。

#### (5) 自立・分権型都市経営（28ページ）

[現況] 分権型社会においては、自己決定・自己責任の都市経営が求められています。厳しい財政状況を踏まえ、財政健全化と行政改革の取組みを強化しながら、効果的で計画的な行財政運営に取り組んでいます。  
・まちづくりの担い手として、様々な主体の活動の活発化や行政との連携強化がみられますが、市民ニーズの多様化・複雑化に対応した横断的連携は十分とは言えない状況です。

[課題] ▶引き続き、財政健全化と行政改革を進めながら、効果的かつ計画的な行財政運営に取り組むことが必要です。  
▶今後想定される権限委譲への対応など、自立した都市経営を積極的・持続的に行うことが必要です。  
▶既存ストックの活用のため、アセットマネジメントによる総合的な施設管理や民間施設の活用など、ハード・ソフト両面の取組みが必要です。  
▶様々な主体によるまちづくりの活動の活性化や、行政によるコーディネートなど、横断的連携の強化が必要であり、市民参加・協働の推進や市民にとってより身近なサポート体制の構築などが必要です。

# 第3章 まちづくりの基本方針

## 1 まちづくりのコンセプト (30 ページ)

「まちづくりの重要な課題」を横断的にとらえ、様々な主体が共有し、ともにまちづくりを進めるための取組み指針として「まちづくりのコンセプト」を設定します。このコンセプトのもとで、市民一人ひとりから始まる、未来を見据えたまちづくりを推進します。

### わたしから！ 未来へつなぐ まちづくり

10年後・20年後の未来を見据えて、わたしから！始める。わたしから！広げる。  
そんな一人ひとりの「わたし」の力が、「まちづくりを支える力」につながる。  
住みやすく、魅力と活力にあふれた千葉づくり。さあ、いまこそ始めよう！

#### 【前提となる考え方】

- (1) みんなで進めるまちづくり
- (2) 未来へつなぐ計画的なまちづくり
- (3) 個性や魅力を高めるまちづくり

## 2 まちづくりの方向性 (32 ページ)

「まちづくりのコンセプト」のもとで課題に的確に対応するため、「千葉市基本構想」に定める6つの「望ましい都市の姿」に即して、5つの「まちづくりの方向性」と、これらの推進を支える「まちづくりを支える力」を定めます。



#### 【まちづくりを支える力】

##### 様々な主体の連携が織りなす「まちづくりの底力」

- 今後、人口減少や少子超高齢化が進み、都市間競争も厳しさを増す中で、多様化・複雑化した市民ニーズに的確に対応するためには、行政による取組みだけでは限界があります。
- 一方、まちづくりの担い手として、自治会の活動に加え、NPOなどの団体による活動や、企業や大学などの社会貢献活動が活発化しており、行政との連携も徐々に強化されています。
- このような活動・連携をさらに活発なものとし、魅力的で活力あるまちであり続けるためには、住民自治の原点に立ち戻り、「市民一人ひとりから始まるまちづくり」への転換を進める必要があります。
- 本市には、元気な高齢者をはじめとして、豊かな経験と知識を持つ人材が多く住まい、活動しています。この市民一人ひとりの力を、行政のコーディネートなどでつないでいき、まちづくりの大きな力へと育てていきます。
- また、このまちで活動する市民・団体・企業・大学などと行政が、まちづくりの担い手としての自覚のもと、未来に向けた目的を理解・共有し、それぞれの適性や役割に応じた取組みを継続的に進めるとともに、相互の連携を強化していきます。
- このような取組みの積み重ねを通じて、みんなで支えあい、1+1=2以上の相乗効果を生み出す「まちづくりの底力」が徐々に大きく育ち、これからのまちづくりを支えます。

## 3 目指すべき都市の構造 (36 ページ)

### (1) 現状と課題 (36 ページ)

#### ア 土地利用

- 高度経済成長期の工業集積や住宅地の形成に伴い、急速に市街地が拡大しました。既成市街地では、中心市街地の活力低下や遊休地の発生がみられるとともに、大規模な住宅団地などが再生の時期を迎えつつあり、今後は、市街地の拡散の抑制や、中心市街地の活性化策の一層の取組みが必要であるとともに、これまでに整備された都市基盤施設の適切な維持・更新が必要です。
- 緑と水辺に代表される豊かな自然が残されています。自然と共生する意識の高まりなどを受け、今後も、農村・森林などの自然的空間が持つ多面的機能の保全と活用を進め、豊かな自然を守り育てることが必要です。

#### イ 都市の機能

- 千葉都心・幕張新都心・蘇我副都心の3つの都心の育成・整備を進めてきており、さらなる活性化が必要です。
- 主要駅の周辺に商業施設など市民の日常生活に必要な機能が集積しており、さらなる利便性の向上が必要です。
- 交通需要の増加に対応するため、公共交通や幹線道路を計画的に整備してきました。郊外部などの地域の交通需要に応じた公共交通の確保や、渋滞解消のため、幹線道路整備が必要です。

### (2) 今後の方向性 (38 ページ)

#### ア 基本的な考え方

- 市民の安全で快適な生活と効率的な都市経営との両立を図るため、長期的な方向性として、市民生活に必要な諸機能の徒歩圏内への集約など、「集約型都市構造」への転換を基本とします。
- 集約型都市構造の転換は、市民の理解と合意形成が不可欠であり、長期的展望に基づく検討、取組みを進めます。

#### 【集約型都市構造の基本的なイメージ】

- 本市の都市構造の現状を踏まえた「集約型都市構造」とは、ひとつの都心部に都市機能が集中する、一極集中型のまちではありません。
- 住宅や商業・業務などの機能が集積し、公共交通のアクセスが充実した複数の「機能を集約する拠点」が、適切な機能分担のもとで連携する多心型の都市構造のもとで、都市機能が効率的にまとまり、公共交通で結ばれた状態を基本的なイメージとします。

#### イ 土地利用

- 市街地の拡散抑制や、既存ストックの活用などを基本に、都市機能の維持・更新・向上を進めます。
- 緑と水辺、農地や山林、市街地の緑地などを良好に保全しながら、臨海部の活性化などさらなる利活用を図ります。
- 優良農地の確保・活用や、都市住民との交流などにより、豊かな農村環境の維持・保全を図ります。

#### ウ 都市の機能

##### (ア) 機能ゾーン

<b>都市機能集約ゾーン</b>	高次かつ多様な都市機能の集積や都市機能の複合化、コンバージョンや更新などを基本として、良好な都市環境を創造する空間とします。
<b>生活・環境調和ゾーン</b>	生活空間と自然環境の調和を基調とし、既存の都市機能の維持・向上を図るとともに、残すべき自然環境の良好な保全、緑や水辺空間の創出などにより、都市の快適性を高める空間とします。
<b>自然共生ゾーン</b>	緑の保全を基調としながら、優良農地の確保・活用に努めるとともに、地域住民の生活利便性の維持や都市住民の農業、自然とのふれあい・交流を促進し、貴重な自然環境の量と質を確保する空間とします。

##### (イ) 拠点

- 3都心それぞれの充実を図るとともに、適切な機能分担と連携により、都市の魅力の向上を図ります。
- [千葉都心]** 都市機能の更新を進めながら、業務機能のほか、商業・文化などの諸機能の集積を進めます。
- [幕張新都心]** 国際交流機能、中枢的業務機能のほか、商業・業務、教育・学術、スポーツ・レクリエーション、住宅などの機能の集積や更新を促進するとともに、業務機能などの活性化を推進します。
- [蘇我副都心]** 商業・業務、研究開発、スポーツ・レクリエーション機能の充実や、広域的な防災機能を強化します。
- 市民の生活圏域の中心となる鉄軌道駅などのうち、主要な駅周辺を生活機能拠点とし、生活に必要な機能の向上を図ります。

##### (ウ) 交通ネットワーク

- 快適な市民生活や経済・産業などの発展、また市内外の都市機能の相互の連携において特に重要な役割・機能を持つ公共交通・道路について、相互の連携を図りながら、それぞれの基幹的なネットワークを構築・強化し、より安全で円滑な移動環境を整備するとともに、環境負荷の低減や超高齢社会などへの対応を図ります。

### 第3章 まちづくりの基本方針

#### 4 実現すべきまちの個性 (43 ページ)

- ・「まちづくりのコンセプト」のもと、「まちづくりの方向性」に基づく政策分野別の取組みを通じて、3つの「まちの個性」の実現を目指します。

#### ▶▶ 未来をつくる人材が育つまち (44 ページ)

- ・まちに住まい、活動する人々の躍動は、まちの個性や魅力を輝かせます。
- ・人口が減少し、少子超高齢化が進む将来においては、人材を確保する重要性がますます増していくため、人材の育成を積極的に進める必要があります。
- ・未来のまちづくりを担う人材が育ち、また、グローバルな環境の中で地域経済・文化活動など多様な分野で活躍できる人材を輩出するまちとして、「未来をつくる人材が育つまち・千葉市」を目指します。

##### [将来のすがた]

未来をつくる人材が順調に育ち、まちの活力の維持・向上が図られています。多様なニーズに対応した行政の取組みのほか、家庭や地域など、まちぐるみで子どもたちをはぐくみ、その自立と成長を支えています。

#### ▶▶ みんなの力で支えあうまち (45 ページ)

- ・みんなが元気でいきいきと暮らすまちは、活気にあふれています。
- ・これからも増えていく経験豊かな高齢者が、元気で健康に暮らしながら、子どもたちをはじめとする地域の人々と交流したり、まちづくりに積極的に参画したりすることを通じて、地域コミュニティを新たなかたちで活性化させることが必要です。
- ・また、個人の活動だけでなく、自治会やNPO、企業、大学、そして行政などが連携を一層強化して、力を合わせて地域の課題を解決していく必要があります。
- ・それぞれが力を存分に発揮しながら、積極的に支えあう。そんな人々のつながりを感じられる「みんなの力で支えあうまち・千葉市」を目指します。

##### [将来のすがた]

市民一人ひとりをはじめとして、自治会・NPOなどの団体、地域コミュニティ、企業、大学、行政などが、まちづくりの目的を共有し、互いに補完しあいながら、積極的に、よりよいまちづくりのための活動を進めています。

#### ▶▶ 訪れてみたい・住んでみたいまち (46 ページ)

- ・魅力的なまちは、市内外の人々を惹きつけます。
- ・また、市外から訪れる人の視点をまちづくりに活かす観点から、このまちに住んでいない人々に「訪れてみたい」「住んでみたい」と思ってもらえることで、市民が気づいていないまちの個性や魅力への気づきや、その充実を促すことにつながります。
- ・充実した都市基盤や豊かな自然、そして多様な人材など、このまちが誇る地域資源を最大限に活かして、外から見ても魅力的な、「訪れてみたい・住んでみたいまち・千葉市」を目指します。

##### [将来のすがた]

豊かな自然環境や新たな産業など、本市の地域資源が最大限に活用され、まちの総合的な魅力が高まることによって、若い世代をはじめとする多くの人が「千葉市を訪れてみたい」「千葉市に住んでみたい」と感じ、観光・レジャーの場、住まう場として、さらに、働く場、学ぶ場として選ばれています。

また、本市に住んでいる人は、本市の魅力を実感しており、愛着を感じながら、これからも住み続けたいと感じています。こうして、まちの活力の維持・向上が図られています。

### 第4章 計画の推進にあたって

#### 1 効果的で計画的な行財政運営 (47 ページ)

- ・環境変化への対応や、自立・分権型の都市経営を行い市民の信頼に応えるためには、行政改革と財政健全化の取組みを強化しながら、市民視点・納税者視点を踏まえた、効果的で計画的な行財政運営を行うことが必要です。
- ・本計画の具体的な事業内容を示す実施計画を策定し、計画事業費枠に基づき、緊急性・必要性・進捗状況・未来への投資効果など総合的な視点から、事業を厳選します。
- ・行政改革プランや財政健全化プランなどと連携しながら、事業の見直しについても、不断に取り組みます。
- ・成果指標を活用し、PDCAサイクルによる進行管理を行います。
- ・積極的な情報提供など、透明性の高い行財政運営を進め、市民との情報共有を積極的に図ります。

#### 2 様々な主体の参画と連携 (47 ページ)

- ・環境変化や、多様化・複雑化する市民ニーズに的確に対応し、魅力的で活力あるまちであり続けるためには、行政のみの取組みにとどまらず、様々な主体の参画と連携に基づくまちづくりが必要です。
- ・そのため、より一層幅広い市民参加・協働の取組みを、課題に応じた適切な手法により進めます。
- ・取組みの連携強化を図るため、行政がコーディネート機能を担うとともに、活動拠点・情報提供など、市民に身近なサポート体制の充実を進めます。
- ・地域課題への対応と地域社会の活性化を図るため、地域コミュニティにおける効果的な参画と連携のあり方について、既存の枠組みにとらわれることなく、不断に検討・見直しを進めます。

### 第5章 分野別計画

- ・「まちづくりの方向性」に基づき、政策分野別の現状と課題及び今後の施策展開の方向性を示します。

#### 方向性1 豊かな緑と水辺を活かした、自然とともに生きるまちへ

(51 ページ)

- ・次代に引き継げる豊かな環境を実現するため、本市の貴重な財産である自然の保全・活用を基調としながら、都市空間の緑化や地球温暖化対策・3Rの推進、良好な生活環境の確保など、環境問題への対応を総合的に進める必要があります。
- 市民がうるおいと安らぎを感じることができる自然共生社会を目指して、生物多様性の確保に配慮しながら、豊かな緑と水辺の保全・活用や、やすらぎとにぎわいのある海辺づくりを進めます。
- 緑と花のあふれる魅力的な都市空間を創出するため、公園緑地の充実や都市緑化、花のあふれるまちづくりを進めます。
- 低炭素社会・循環型社会の実現を目指して、地球温暖化対策や3Rの推進、良好な生活環境の確保などを進めます。

#### 1 豊かな緑と水辺を活かした、自然とともに生きるまちへ

##### 1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ

1-1-1 緑と水辺の保全・活用

1-1-2 やすらぎとにぎわいのある海辺の創出

##### 1-2 緑と花のあふれる都市空間を創る

1-2-1 公園緑地の充実

1-2-2 都市緑化の推進

1-2-3 花のあふれるまちづくりの推進

##### 1-3 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る

1-3-1 低炭素社会の実現に向けた取組みの推進

1-3-2 循環型社会の実現に向けた取組みの推進

1-3-3 良好な生活環境の確保

1-3-4 環境保全・創造活動の推進

## 第5章 分野別計画

### 方向性2 支えあいが安らぎを生む、あたたかなまちへ

(61 ページ)

- ・市民が元気に活躍できる社会を実現するため、ライフステージに応じた健康づくりへの支援や的確な保健・医療・福祉サービスの提供、そして地域社会での支えあいが必要です。
- 市民が健康でいきいきと暮らせるよう、健康づくりを推進し、医療体制を充実するとともに、食の安全と環境衛生を推進します。
- 子どもを安心して産み、育てやすい環境を創るため、子育て支援を充実するとともに、子どもの健全育成を推進します。
- ともに支えあうあたたかな社会を築くため、様々な主体の参画・連携による地域福祉を充実します。
- 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を築くため、介護予防や生きがいづくりを促進するとともに、地域生活支援や介護保険サービスを充実します。
- 障害のある人が自立して暮らせる共生社会を築くため、療育体制・相談支援や地域生活支援を充実するとともに、就労支援と社会参加を促進します。

#### 2 支えあいが安らぎを生む、あたたかなまちへ

2-1 健康で活力に満ちた社会を創る	2-1-1 健康づくりの推進 2-1-2 医療体制の充実 2-1-3 食の安全と環境衛生の推進
2-2 子どもを産み、育てやすい環境を創る	2-2-1 子育て支援の充実 2-2-2 子どもの健全育成の推進
2-3 ともに支えあう地域福祉社会を創る	2-3-1 地域福祉の充実
2-4 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を創る	2-4-1 介護予防と生きがいづくりの促進 2-4-2 地域生活支援の充実 2-4-3 介護保険サービスの充実
2-5 障害のある人が自立して暮らせる共生社会を創る	2-5-1 療育体制と相談支援の充実 2-5-2 地域生活支援の充実 2-5-3 就労支援と社会参加の促進

### 方向性3 豊かな心が育ち、新たな価値が生まれるまちへ

(73 ページ)

- ・豊かな人間性をはぐくみ、人生をより実り多いものとするため、子どもから大人まで、生涯を通じた学びを支える必要があります。
- ・また、スポーツ・レクリエーション活動の推進や文化・芸術の振興、グローバル社会に対応した国際化の推進や大学・企業等との連携などを通じて、新たな価値の創出を図ることが必要です。
- ・同時に、市民の持てる力をまちづくりの場でも十分に発揮できる必要があります。
- 未来を担う人材を育成するため、教育の振興や子どもの参画を進めます。
- 市民の得た知識や経験により、より豊かな暮らしや、学習成果を生かせる社会が醸成されるよう、生涯を通じた学習やスポーツ活動を支えます。
- 個性ある文化をはぐくむため、文化・芸術を振興するとともに、文化的財産の保全・活用を進めます。
- 国際化の推進や、大学・企業等との連携など、多彩な交流・連携によるまちづくりを進めます。
- 市民が持てる力を発揮してまちづくりに取り組めるよう、市民参加・協働や男女共同参画を進めます。

#### 3 豊かな心が育ち、新たな価値が生まれるまちへ

3-1 未来を担う人材を育成する	3-1-1 学校教育の振興 3-1-2 地域の教育力の向上 3-1-3 子どもの参画の推進
3-2 生涯を通じた学びとスポーツ活動を支える	3-2-1 生涯学習の推進 3-2-2 スポーツ・レクリエーション活動の推進
3-3 文化を守り、はぐくむ	3-3-1 文化・芸術の振興 3-3-2 文化的財産の保全と活用
3-4 多彩な交流・連携により新たな価値を創る	3-4-1 国際化の推進 3-4-2 大学・企業等との連携の推進
3-5 市民の力をまちづくりの力へ	3-5-1 市民参加・協働の推進 3-5-2 男女共同参画の推進

### 方向性4 ひと・モノ・情報がつながる、生活基盤が充実したまちへ

(85 ページ)

- ・環境変化に対応し、将来にわたって効率的で住みやすい都市を築くため、市民の安全・安心を守り、快適な暮らしの基盤づくりを進めるとともに、ひと・モノ・情報のつながりを支える必要があります。
- 市民の安全・安心を守るため、災害に強いまちづくりや、交通安全・防犯対策、消費生活の安定・向上などを進めます。
- 市民の快適な暮らしの基盤づくりとして、計画的な土地利用や良好な都市景観の形成、市街地整備などを進めます。
- ひと・モノ・情報が活発につながる基盤づくりとして、総合的な交通ネットワークの形成や人にやさしい移動環境の創出、ICTを活かした利便性の向上を進めます。

#### 4 ひと・モノ・情報がつながる、生活基盤の充実したまちへ

4-1 市民の安全・安心を守る	4-1-1 防災対策の推進 4-1-2 防災体制の充実 4-1-3 消防・救急体制の充実 4-1-4 交通安全の推進 4-1-5 防犯対策の推進 4-1-6 消費生活の安定・向上
4-2 快適な暮らしの基盤をつくる	4-2-1 市街地の整備 4-2-2 計画的な土地利用の推進 4-2-3 良好な都市景観の形成 4-2-4 住宅・住環境の充実 4-2-5 生活基盤の充実
4-3 ひと・モノ・情報がつながる基盤をつくる	4-3-1 公共交通ネットワークの形成 4-3-2 道路ネットワークの形成 4-3-3 人にやさしい移動環境の創出 4-3-4 ICTを活かした利便性の向上

### 方向性5 ひとが集い働く、魅力と活力にあふれるまちへ

(99 ページ)

- ・将来にわたって魅力と活力にあふれる都市であり続けるために、まちの魅力を高めるとともに、地域経済の活性化や都市農林業の振興を図る必要があります。
- まちの魅力を高めるため、3都心などの魅力向上や、都市の国際性の向上、観光の振興などを進めます。
- 地域経済を活性化するため、産業・商業などの振興や新事業の創出、勤労者の支援などを進めます。
- 都市農林業の振興を図るため、農畜産物の安定供給や農業経営体の育成、農村と森林の持つ多面的機能の活用などを進めます。

#### 5 ひとが集い働く、魅力と活力にあふれるまちへ

5-1 都市の魅力を高める	5-1-1 3都心などの魅力向上 5-1-2 都市の国際性の向上 5-1-3 観光の振興と魅力の創出・発信
5-2 地域経済を活性化させる	5-2-1 産業の振興 5-2-2 新事業の創出 5-2-3 商業・サービス産業の振興 5-2-4 物流・港湾機能の強化 5-2-5 勤労者の支援と雇用の創出
5-3 都市農林業を振興する	5-3-1 新鮮で安全・安心な農畜産物の安定供給 5-3-2 安定した農業経営体の育成 5-3-3 農村と森林の持つ多面的機能の活用